

大使コラム（2012 年 9 月）

9 月、リスボンでは、少々湿度もある残暑が続いています。それでも、首都の南を流れるテージョ川に日中とつぜん冷気が遡ってきて、川面に濃霧を生じさせることも幾度かありました。こんな時、川を航行する船の汽笛に、もの悲しい秋の気配を感じることもあります。夏期休暇の季節のため、先月は市内の交通が一段と少なくなっていました。ポルトガルでは、今月から新学期です。また市内に喧噪が戻るのも、もうすぐでしょう。

先日、リスボンの東から南に広がるアレンテージョ地方の経済事情を視察する機会がありました。この地方は、面積でポルトガル全体のほぼ三分の一ですが、人口は全体の約 5 %、一人当たり GDP も平均よりかなり低く、過疎と高齢化が進む地域です。太陽に恵まれながら雨量が少なく、伝統的な農業は近代化が遅れています。このため、水資源を安定的に確保・供給し、農業の近代化と拡大、クリーン・エネルギーの開発、さらに農産品加工業や観光業の育成をめざす、大規模な国家プロジェクトが進行しています。

この「アルケバ計画」では、グアディアナ川に水域面積が当国最大の「アルケバ・ダム」等いくつかのダムを造り、既に 2010 年から水資源の貯蓄と供給を開始しました。（最大水量 4150 ヘクトメートル立方）。灌漑システムの整備で、既に 6 万ヘクタールの農地が灌漑可能となり、現在も拡張計画を進めているそうです。また、1 万平方キロの地域で生活用水や工業用水が利用可能となりました。

「アルケバ・ダム」に設置された発電能力 260 MW の「水力発電所」は、今後 520 MW まで増強可能で、そうなれば国内第二の規模になるそうです。さらに、道路網や空港の建設による物流インフラの整備、モデル農業の普及、観光開発など地域の総合的開発計画は、「アルケバ開発・インフラ整備公社（EDIA）」が中心となって、着々と進んでいるようです。

この開発計画の成果として、高生産、高品質の近代農業がこの地域にも徐々に拡大しています。訪問したオリーブ油の製造企業では、オリーブ果の生産拡大で成果を上げており、さらなる拡大も計画していました。食用ブドウの生産会社でも、タイ人の出稼ぎ労働者まで雇い、大規模な生産管理、出荷作業を行っていました。大手のワイン生産業者も、灌漑設備の充実で大いに助かっていると言っていました。

「アルケバ計画」の現地視察は、農業大臣からの強い要請で実施しました。大臣を始め関係者は、潜在力の大きいアレンテージョ地方の農業、観光、農産品加工、インフラ整備などに、日本からの投資を期待すると表明しています。現下の経済危機の影響は免れないとしても、地の利を生かしたこの政策が着実に成果をあげているのも間違いなく、この国の将来のために大変心強いものでした。

先月初め、南島原市の「平成遣欧少年使節」として中学生 8 名が、市長や市の関係者の引率でエヴォラ市を訪れました。同市の「口之津港」に 450 年前、ポルトガル人が来港したことを記念する行事の一環として、「天正少年使節」の遣欧の道を尋ね

て来訪したものです。この機会に、彼らを迎えたエヴォラ市長と南島原市長との間で、今後の交流についても話し合いが行われました。古くて新しい日本とポルトガルの交流の歴史に、新たな一章が書き加わるよう、大使館としても両市の交流を支援していきたいと考えています。

残暑厳しき折から、皆様にはご自愛のほどをお祈り申し上げます。